

# 安心のまちづくりのために

第37回

# 高齢者の暮らしを考える

高齢化社会が進むとともに、医療・介護のサービスの需要が増加し続けるなか、病気やケガがあっても、住み慣れた自宅での生活を希望する人は増えています。

75歳以上の人口が増大する2025年に向けてさまざまな機関が連携し、在宅医療・介護が実現できるしくみ作りを取組んでいます。今回は在宅医療の中でも重要な役割を果たす訪問看護についてお話を伺いました。



インタビュー

## 在宅医療・介護における

## 訪問看護の役割



(右) 松阪市民病院 訪問看護ステーション

管理者 看護師長 市川 千恵子さん

(左) 嘉祥苑 訪問看護ステーション

管理者 看護師 杉平 由美さん

### 訪問看護の役割について 教えてください。

杉平さん

訪問看護とは、看護師が自宅を訪問し必要な医療的行為、ケアを行うことです。病気やケガがあっても、自宅で生活したい方は多くみえます。ご本人・ご家族が希望している生活を叶えるために、かかりつけ医を中心として介護支援専門員(ケアマネジャー)やホームヘルパー、または近所に住んでいる住民の方など様々な立場の人が一つのチームとなり生活を支援していくことが大切です。私たち訪問看護師もその一構成員として医療的、身体的なサポートやご本人・ご家族が抱えている不安の聞き取りなど生活の場に入ってお手伝いをしていきます。

### 今後の取組について 教えてください。

市川さん

訪問看護だけでは在宅医療を支えることはできません。しかし、医療依存度が高くないうちから訪問看護を利用してもらうことで、仮に急な入院になったとしてもスムーズに在宅医療をスタートできる可能性は高くなります。入院した後をどう過ごしたいのか、それを実現するために誰がどうやって関わっていくのか、一人ひとりをもっと自分たちができることを考え協力し合う時代になってきています。松阪市では多職種連携にも努めています。何か気になることがありましたら、お近くの地域包括支援センターやホームヘルパーなどに相談してもらおうと私たちまでつながってもらえるのでは是非ご相談ください。訪問看護師としてご家庭や生活の場に訪問することで細かい部分までサポートを行い、「訪問看護師に来てもらってよかった」と思ってもらえるよう頑張っていきたいと思っています。